



個別ドラフターの新設



排水施設管理・分析室の改修



地階研究掲示板の設置



大型印刷室の新設



応化進路指導室のオープン化

ここ数年の 2 号館内の改修・新設設備

工 化 時 報

第 26 号



Since 1938

工化会会長あいさつ

工化会会長 関口 優紀

(昭和48年工業化学科卒)



物質応用化学科創設70周年記念事業

多くの卒業生から母校物質応用化学科の発展のためにと記念基金が寄せられ、その主旨を次の3分野、①在校生が安心して学べる奨学金、②若手研究者への支援、③目標に向い日夜努力してきた学生への奨励金、と具体化して平成21年度より事業を開始致しました。

①の「奨学金」は記念基金活動のなかで最大の目玉であります。物質応用化学専攻(博士前期過程)に推薦入学を許可された研究意欲の高い学生に対して80万円が支給され、これにより国立大学並みの学費で学ぶことができます。第1回給付対象者として4年次生の中野春奈さん、仲村良信君の2名が選出され、09年度工化会通常総会において給付金授与式が行われました。②の「若手研究者への支援」として、課程を修了する新博士には各10万円を支給しており今年度は赤澤寛行君、諏訪和也君の2名が対象となりました。新研究者として社会へ羽ばたく準備に大いに活用してほしいと願います。

③の「奨励金」につきましては現在応募申請受付中であり、詳細は別途報告申し上げます。

尚、今年度の事業計画としましては役員会(平成22年4月17日)、通常総会(平成21年5月15日)の開催、例年のとおり講演会の開催(理工学部校友会後援)、およびオープンカレッジ、一日体験化学教室、など種々の後援事業を行います。加えて平成21年度より新規事業として立ち上げた工化会主催講演会開催および工化会賞授与にさらに力を入れます。今年度の工化会主催講演会は第1回5月8日、小笠原守人氏、第2回12月11日、安達昭郎氏、第3回2月26日(予定)原幹夫氏に講師をお願い致しました。工化会OBの貴重な話を聞けるとのことで参加者はのべ500名を越えました。また工化会賞受賞者につきましても30余名の候補者を予定しており、これらの取り組みを通じて卒在校生の絆が

さらに強化されることを期待します。

大学の危機と工化会の役割

さて今、大学は試練の時を迎えております。18歳人口は92年の205万人をピークにして毎年平均3%という勢いで減少して来ました。近年120万人で歯止めはかかるとは言え志願者数が4割も減っているにもかかわらず大学の数は逆に増えており再編、淘汰は避けられない状況とされています。加えて入学率に目を転じると1990年代初期には70%程度であったものが2007年度は90%と全入に近い状態であり、中には学生が集まらず募集停止に追い込まれている大学も1、2ではありません(週間ダイヤモンド2009/10/31号抜粋引用)。有体にいえば大学の質が落ちているのです。

物質応用化学科においても同様の問題が指摘されており、当然学科側も種々施策を実行しているとは言え、在学生にもその危機意識が浸透しているかが気になるところです。御茶ノ水駅周辺は学生数で群を抜くものの今や本屋はなく楽器屋ばかりが目につく有様です。この大学の質の低下については志願者のレベルアップは言うまでも無く、在校生の基礎学力、知識レベルを上げることが求められます。大学と学生の双方の努力が上手くかみ合った端的な現れの1つがどのような会社に就職したかであり、大学のレベルは学生の就職内容にあるといっても過言ではありません。我が学科もこの視点に立ち目指すべき具体的な目標、工程表に沿った積極的な行動が不可欠ではないでしょうか。幸いなことに物質応用化学科は、環境、エネルギーなどの修復が明確な課題となることが追い風となり、数年前より偏差値と就職率の上昇が見られるとのことです。理工学部を牽引して行かなければとの危機意識の浸透が進んでいる証左と言えます。我が工化会はそのような環境下、資金的援助のみならず更にどのようなことが出来るかを皆さんと共に考え、行動に移して行きたいと思えます。

静電容量型変位計・超音波リニアモータの輸入販売

Progress & Creativity

ピー アンド シー株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比須1丁目20番8号
(エビスバルビル5F)

電話 (03) 5793-1561 ファクシミリ (03) 5793-1562

昭和35年卒 代表取締役 安達 昭郎

女性研究者支援モデル育成プログラム

**科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」
プログラムで「キャリアウエイ・ユニバーサル化日大モデル」
が採択**



物質応用化学科 教授 長田 洋子

わが国が将来にわたり活力ある経済・社会を創造していくためには、多様な人材の能力を活用するとともに、新たな発想を取り入れていくことが重要です。その人材として女性医師、女性公務員、女性研究者があげられます。しかし、いまや日本の大学的女子学生の割合は 30% 近く、大学院生も 25% が女性であるのに、女性研究者の比率は、12.5% (2007 年) と先進国中で最低であり、理工系女性研究者比率となると約 5%、欧米と比べて著しく低いありさまです。

1999 年に男女共同参画社会基本法が制定されました。2005 年 12 月には「第 2 次男女共同参画基本計画」が閣議決定され、特に重点的に取り組むべき事項として、2020 年までに社会のあらゆる分野における指導的地位において女性の占める割合が 30% 以上になることが望ましいと盛り込まれました。この計画では科学技術分野における多様性を確保し、知的財産の創出、国際競争力の向上のため女性研究者の採用機会を確保すること、また、理工系分野の人材育成の観点から、女子高校生のこの分野の進路選択の支援についても言及されています。2006 年 3 月に閣議決定された第 3 期科学技術基本計画にも「女性研究者の活躍促進」「女性研究者の積極的採用」がうたわれています。この状況を受けて文部科学省においていくつかの事業がスタートし、科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」、「女子中高生理系選択支援」などが予算化されました。

日本大学は本部研究委員会内に「男女研究者共同参画専門部会」を設置し、2008 年 2 月第一回日本大学男女研究者共同参画シンポジウム「総合大学における先導的男女研究者支援モデルの構築に向けて」を日本大学会館で開催、その後もいろいろな企画を次々と実行しました。そして、2008 年に「キャリアウエイ・ユニバーサル化日大モデル」事業が文科省の平成 20 年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデルの構築に向けて」を日本大学会館で開催、その後

もいろいろな企画を次々と実行しました。そして、2008 年に「キャリアウエイ・ユニバーサル化日大モデル」事業が文科省の平成 20 年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択されました。実施予定規模は年間 5000 万円、予定期間は 3 年です。この事業の目的は、女性研究者がその能力を最大限に発揮できるよう、また、仕事と家庭を両立できるように大学の研究環境の整備や意識改革を進めることにあります。もう一つの目的は、付属女子中学・高校を有する日本大学の特性を生かし、女子中高生が理系を選択するのを支援することです。これらの事業の実施は理工学部、生物資源科学部、医学部が中心となって行われています。

日本大学的女子学生数は 2 万人（日大全体の 30%）と他大学と比較すると日本一多く、大学院生的女子比率は前期課程 23%、後期課程 30%ですが、その比率は理工学部で約 10%（図 1）とかなり低くなっています。その中でわが物質応用化学科の女子院生の比率は 20%と健闘しています。一方、日本大学全体の専任教員のうち女性は 360 名（12%）ですが、そのうちでも助教・助手の比率が高いので職位の向上が課題です。そのため専任教員（研究職）の 25%、新規採用専任教員の 20%以上を女性とすることが本事業の当面の目標になっています。理工学部ではさらに厳しい現状でわずか 3%が専任教員であり（図 2）、物質応用化学科でも 23 名の専任教員のうち筆者のみ女性です。教授・准教授など上位の女性研究者数があまりに少ないと、研究者を目指す次世代の女性の意欲が失われるのではないかと懸念されます。

大学全入時代を向え、各大学ではさらなる女子学生の確保が重要課題となっている現在、日本大学においても、2008・2009 年度は中学生から研究者までを対象に講演会、シンポジウム、啓発セミナー、女子中高生向けの実験教室など多くの催しを学内外で開催しました。今後は、これらの啓発事業により理工学部に入學した女子学生が希望通りの道に進めるよう、企業も含めた就職先を確保することが非常に重要な課題となるでしょう。

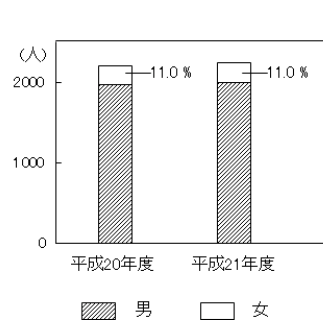


図 1. 理工学部入学者数

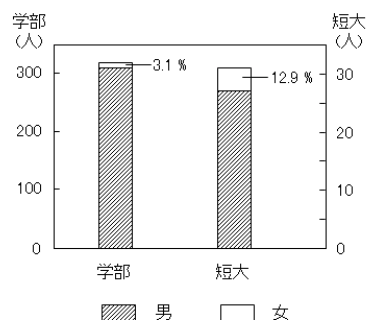


図 2. 平成21年度理工学部教員数(助教以上)

日本大学 N プロジェクト始動



日本大学 N プロジェクト 研究代表者
物質応用化学科 准教授 大月 穰

日本大学はその名にたがわず日本で一番大きな大学です。箱根駅伝では多くの人がテレビで日本大学の名前を耳にし、ピンクの旗を目にするでしょう。一番日本大学を有名にしているのはたぶん付属高校の甲子園での活躍でしょうか。そうそう、日藝はとても有名で、爆笑問題（ほとんど学校に来てなかったそうですが）や三谷幸喜さん（間違いなく天才です）を輩出しています。

ところが大学の本来の存在意義である研究と研究を通じた教育という面では、残念ながら、大きさ程の存在感を示していません。

それぞれの学部が、たとえ地理的に離れていても、もっと協力すればいい方向に向かうはずだと考えた先生方、事務局の方々が本部に集まり、数年前に「学術研究戦略会議」という会議を立ち上げました。そして、違う学部の先生方、つまり異分野の研究者が一緒になって、本気になって研究すれば、インパクトのある研究成果を日本大学発として、世の中に発信できるだろうという結論になりました。そして、「健やか未来」というスローガンを作って、本部から億単位の研究費をだして、各学部の合同研究チームからなる健やか未来を作るためのプロジェクトを募集しました。どういう成り行きか私も代表として応募することになりました。それまで会ったこともなかった文理学部や医学部などの先生方と打ち合わせを重ねて、「ナノ物質を基盤とする光・量子技術の極限追求」というテーマでチームを作って応募しました。そして、私達の研究課題は、倍率 16 倍を突破して選ばれたのです。

2009 年度にスタートしたその研究計画は次のようなものです。健やか未来を実現するためには、世の中には大きな問題があります。なにより人間の健康が健やかな社会の基礎になりますが、日本人の 3 人に 1 人が癌で亡くなっているという現状があります。石油を主とする化石資源の枯渇とそれに関連して大気中の二酸化炭素濃度の急激な増加

という問題があります。一方で、情報化社会は急速に進展していて、今後ますます大容量の情報を高速かつ安全に処理する必要が増大すると予想されます。これらの一見多岐に渡る問題は、ナノ科学、ナノ技術が解決に大きく貢献できる問題であると私達は捉えました。ナノは原子が集まってできる分子くらいの大きさの単位で、化学の得意とするところです。そこで、ナノ科学、ナノ技術の基礎分野の専門家と、医療分野、エネルギー分野、そして情報分野の専門家が共同して研究を進められる学部連合チームをつくりました。

研究プロジェクトですから、インパクトのある具体的な研究成果をあげて、それを発信することが最も重要です。早いもので、今原稿を書いている時点でもう 1 年目が終わろうとしています。情報分野で超高速記録に関連した研究がアメリカ物理学会の Physics に紹介され、医療分野の遺伝子ネットワークの解析が Nature に掲載されるなど、既に大きな成果も出ていますし、来年、再来年につながる有望な結果も多く出つつあります。

プロジェクトは、日刊工業新聞や東洋経済に掲載され、また、シンポジウムを開催したり、一大科学イベントであるお台場のサイエンスアゴラへ出展したりなど、PR にも努めています。ホームページも訪ねてみて下さい。日本大学のトップページ (<http://www.nihon-u.ac.jp/>) からリンクされています。

このような成果の発信と同時に、プロジェクト研究として、それらの成果を統合する新しい融合分野を切り開きたいと考えています。プロジェクトが終了予定の 4 年後、私達のプロジェクトが日本大学発のテーマの産官学連携、国際連携の拠点に発展することができるよう、研究の進め方などについて議論を重ねているところです。

次世代を担う人材を育成することは大学における研究の最も重要な意義の一つです。このプロジェクトでは、最先端研究を通じて、次世代を担う研究開発者を育成します。総合大学の分野横断型研究プロジェクトであるという強みを生かすことによって、分野をまたがる洞察ができて、新しい境界領域を切り開ける人材を輩出できるものと考えています。

工化時報をお読みの物質応用化学科出身のみなさま、私達のプロジェクトは産学共同も重視していますので、一緒にできることがありそうなら声をかけて下さい。フレッシュな物質応用化学科 1 年生のみなさま、近い将来、化学から周辺領域へ大きな世界が広がりそうですよ。

学科創設 80 周年に向けて

工化会名誉会長
(物質応用化学科主任)
教授 西宮 伸幸



リーマンショックから 1 年が経過した 2009 年の第四四半期(10-12 月), 米国の素材大手の業績回復に企業差が出ているという。デュポンが 4.4 億ドル, コーニングが 7.4 億ドルの黒字を出した一方, 電炉最大手のヌーコアは黒字に転じたものの売上げは 29%減, US スチールは 2.7 億ドルの赤字となった。化学が元気だという見方もあるが, アジア太平洋へいち早く進出した前二者の戦略が奏功したと言うべきだろう。

化学とグローバル, これを時代のキーワードととらえれば, 本年 5 月の日本経団連の次期会長人事も合点がいく。住友化学会長の米倉弘昌氏は, 中東・石油メジャーを中心に広い海外人脈を持ち, シンガポールやサウジアラビアで石油化学コンビナートを展開した実績を持つ。

物質応用化学科の入試状況も好調で, 推薦入試の志願者は増加, 一般 A 入試の偏差値は 2 年続けて上昇, 本年の A 入試志願者は 3 割増などとなっている。地球環境問題で世の中が化学に注目していることが背景にあるのかもしれないが, 工化会をはじめとする桜門出身の諸氏が陰に陽に学校を支えてくださっている力が大きく作用していることは疑い無い。

昨年の 5 月, 工化会の 59 氏の出席を得て開催された通常総会において, 学科創設 70 周年記念基金の運営に関する議案が承認されるとともに, 学科創設 80 周年に向けて支援を継続・強化していく合意がなされた。委任状 364 名を含めた合計 423 名の総意に基づく方針は頼もしくもあり, かつ重い。

この総会の議を経て, 博士後期課程の学生への支援金給付(若手研究者支援事業), 推薦入試で博士前期課程へ進学する学生から選抜された成績優秀者への奨学金給付(奨学生支援事業)および難度の高い資格試験に合格した学生への奨励賞授与(奨励賞授与事業)の三つの記念事業がスタートし, インセンティブを目に見える形で与えられるようになった。物質応用化学科への入口の状況が好調に推移している今, これら三事業の活用とたゆまぬ改革の継続により, 出口のレベルを高め, 社会の重心をになう人材を輩出する使命を果し, 輝かしい 80 周年を現出させたい。労を惜しまない日大人こそがグローバルに求められていると確信する。

工化会主催講演会について

工化会庶務委員会
委員 小嶋 芳行

(昭和 61 年修士課程修了)



これまで、理工学部主催あるいは校友会主催の講演会がありました。新しい試みとして本年度より工化会主催の講演会が行われるようになりました。これは工化会の庶務委員の企画によるもので、OBの方から学生に対して刺激を与えていただくためであります。第 1 回の工化会主催講演会は平成 21 年 5 月 8 日・9 日に行われた物質応用化学科新入生オリエンテーションの際に昭和 55 年卒で NTT システム開発株式会社の小笠原 守人氏に講師をお願いし、ご多忙の中軽井沢までお越しいただきました。午後 7 時より新入生(在籍 240 名)に対して「キャリア教育」について 30 分程度お話をいただきました。入学間もない 1 年生という早い段階から就職に対する考え方などを伺うことができ、大変参考になりました。第 2 回工化会主催講演会は平成 21 年 12 月 11 日に開催されました。この講師には昭和 35 年卒で元工化会会長、現在ピーアンドシー株式会社代表取締役社長の安達 昭郎氏をお願いいたしました。場所は 1 号館 CST ホールで行われました。講演の対象を 2 年生(在籍 240 名弱)としたため、会場は立すいの余地もないほどでありました。学生以外には滝戸理工学部長、西宮教室主任など教員も参加していただきました。演題は「これから問われる Chemistry とは・・・」でありました。午後 14 時からご講演ははじまり、プロジェクター等を使用せず、身振り手振りも含め熱演していただきました。ご講演の内容は学生時代の話、学生時代に教授に言われた忘れられない一言、大学を出られてからしばらくの苦労話、など 1 時間半があっという間に過ぎ去りました。とくに学生へのメッセージ



としては「化学はつぶしが利く」、「読書+ α (経験)」、「相性を大切に」という 3 点でありました。講演終了後、場所を移し、さらに懇親を深めました。

第 3 回工化会主催講演会は平成 22 年 2 月 26 日に講師として安達氏と同期で元東洋通信機株式会社に勤められていた原 幹夫氏にお願いしています。演題は「人工水晶の育成」であります。

学生編集委員のページ

「学生からみた今年の就職活動」

4年生になると朝から晩まで研究室で研究に没頭していますが、学生にとって研究と同じくらい重要なことは卒業後の進路です。今年はリーマンショックの影響を受けて再び景気が低迷した為、バブル崩壊後の就職氷河期の時のように、就職活動は大変厳しいものとなりました。

そこで、今、学生はどのような考えを持って就職活動をしているのかを知るために、10月に中旬に緊急アンケートを行いました。有効回答数は160名でした。その結果から、現在の学生の就職活動の真相について考察してみたいと思います。

<就活アンケート>

Q1 卒業後の進路は？

a：就職（一般企業）、b：公務員、c：教員、d：進学、
e：留学、f：その他

Q2 いつから就活を始めましたか？

a：3年生の12月以前、b：3年生の1月、c：3年生の2月、
d：3年生の3月、e：4年生の4月、f：4年生の5月以降

Q3 何社エントリーしましたか？

a：1～24社、b：25～49社、c：50～74社、d：75～99社、e：
100社以上

Q4 実際に受けた企業は何社ですか？（書類選考、面接など）

a：1～9社、b：10～19社、c：20～29社、d：30～39社、
e：40社以上

Q5 何を優先してその企業を受けましたか？

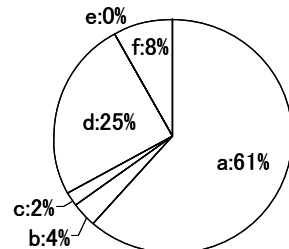
a：業種（職種）、b：勤務地、c：福利厚生、d：休暇、
e：給料、f：社内の雰囲気、g：安定性・将来性、
h：その他（何でも）

Q6 就活をするにあたってどのような対策を行いましたか？

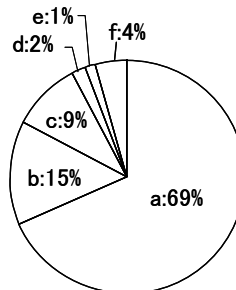
また、他に何かして良かったことなどがありますか？（記述してください）

<アンケート結果>

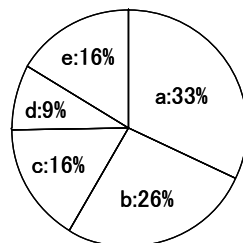
Q1



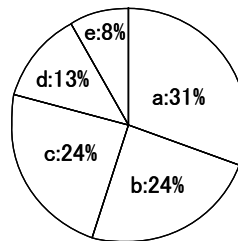
Q2



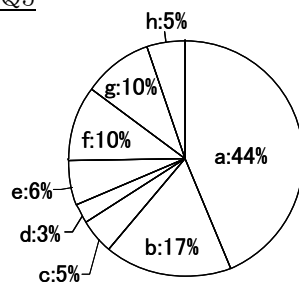
Q3



Q4



Q5



Q6

- ・ エントリーシート対策
- ・ 身なりを正す
- ・ 自己分析を行う
- ・ 会社訪問
- ・ 資格の取得
- ・ インターンシップに参加する
など

この結果から、今年の学生は例年より早くから就職活動を行ってインターン、合同説明会、就職セミナーに積極的に参加し、50社以上にエントリーした人が4割以上いました。ただし、受身ではなく業界を絞って就職活動を行う人が多く、社内の雰囲気や将来性、勤務地など自分の志向や適性に合った会社を選ぶとする傾向が認められます。また、自分の能力を高めるために大学院に進学する人も多くいました。

就職事務課の先生に聞いたところ、卒業式直前まで先生方が就職の紹介をすることがあり、さらに工化会主催のセミナーも行っているの、これらを積極的に活用して最後まで頑張ってもらいたいとのことでした。

在学生の皆さんは、この結果を参考にして悔いのない進路を決めていただければと思います。

クラス会・同窓会の報告

昭和42年卒工業化学科同期会報告

昭和42年卒工業化学科同期会を平成21年10月31日(土)に山の上ホテルにて開催しました。前回(18年10月)の約束通り3年目の再会でした。



代表幹事：柳脩一郎
段取：栃木勝己
進行：彦坂祥三
参加人員：30名

幸いこの3年間新たな逝去の報告はありませんでしたが、すでに故人となられた方々への献杯で会は厳かに始められました。

65歳を過ぎての近況報告は、すでに現役を退かれ方が多く、専ら体調への愚痴や年金・保険への不満、また老々介護での苦労話に華が咲きました。残念なことに、研究成果とかノーベル賞とかの学術的な話題は若干少なかったように感じました。それでも、現役を継続されていたり、新たな仕事に邁進されていたり、趣味を生きがいとして悠々自適に過ごされたりといった前向きに老後を過ごそうとする意気軒昂な姿勢に少なからず感服させられたりいたしました。

中には、この会のあり方について、熱心なご意見や、連絡が途絶えている仲間の消息打診などもあって2時間が頗る短く感じました。

再び3年後に元気で再開することを約して散会としました。

平成21年12月 今田雅躬(出席番号16番)

平成22年度高分子合成同友会開催のお知らせ

高分子合成研究室は1972年に設立されてから2009年3月までに約900名の卒業生を輩出しており、本年40期目の卒業研究生を迎えた。第8回目の総会は2009年11月21日(土)駿河台1号館にて昭和49年卒業の牛山仁司様からの講演もあり、約100名の参加により大盛況であった。また新企画として、懇親会の席上で大学院生の研究ポスター発表

会を行い、優秀賞を3名に授与した。次回開催日は2010年11月13日(土)を予定している。本会は、豊富な人材ネットワークを気軽に活用できるサロン風産学連携拠点として研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願っている。興味ある方は研究室(澤口 sawaguti : 03-3259-0819 ; 萩原 hagiwara : -0433 ; 星 hoshi : -0825 ; ****@chem.cst.nihon-u.ac.jp) にご一報を!



(同友会役員 津野岳彦会長, 関口優紀, 澤口孝志及び古橋雄二副会長, 丸山照仁幹事長, 小笠原守人, 岡崎弥寿子及び三柴晶子会計, 新国禎倖及び嶋原靖宏監査)

新 任 紹 介

短大 応用化学科
助教 高田 昌子



平成21年4月から短大応用化学科に助教として奉職することになりました高田と申します。これまでは、物質応用化学科と短大応用化学科で非常勤講師として「食品科学」を担当し、他の大学でも非常勤講師としていくつかの科目を担当しておりました。平成元年4月日本大学大学院に入学し、高分子工学研究室でポリビニルメチルエーテルの溶液物性について栗田先生のご指導を受け学位を取得できたことが、今日に繋がったのだと思い、栗田先生はじめ先生方に感謝しております。私は共立女子大学家政学部食物学科を卒業し、母校の化学研究室内の助手になり、東京理科大学理学部二部数学科を卒業しました。助手のときは食品中の油脂あるいは水の状態について研究していました。この度、助教として学生指導の機会に恵まれましたことは、とても幸運なことだったと感じております。短大での教育に精進してまいります。よろしくお願い致します。

平成 21 年度 就職状況



応化就職指導委員会
委員 平野 勝巳

○進路状況の変遷

卒業生の進路については、近年製造業の割合が大きく低下して多岐に亘り、特にサービス業と進学との割合が上昇する傾向が認められる。修了生についても製造業の割合は大きく変わらないものの、サービス業と進学との割合が増加傾向にある。その原因について学生の学力低下が指摘されているが、深層には社会の高学歴要求と学生の志向多様化との乖離がある。その志向は授業やインターネットなどの伝聞情報をもとに形成される場合が多いため、教員、OB、OG の方々は情報発信者として学生の啓蒙に努めていただきたい。

平成20年度卒業生の就職先（工化時報より抜粋）

大学院		学部	
製造業	67%	製造業	19%
小売業	2%	情報通信業	7%
サービス業	6%	小売業	7%
教育関連	4%	サービス業	9%
鉱業	2%	金融・保険業	3%
建設業	4%	飲食・宿泊業	1%
進学	4%	公務員	2%
未定	12%	教育関連	1%
		建設業	3%
		進学	29%
		未定	17%

【製造業】 アキレス、信越ポリマー、住友スリーエム、日産化学工業、横浜ゴム、品川白煉瓦、住友大阪セメント、コスモ石油、帝国石油、ニチアス、田中貴金属、エルナー、スタンレー電気、市川毛織、山崎製パン

【情報通信業】 ソフトバンクＢＢ、富士通ビーエムシー、ヤマトシステム開発

【卸・小売業】 マックスファクター、スリーボンズ、大塚商会、昭和興産、巴商会

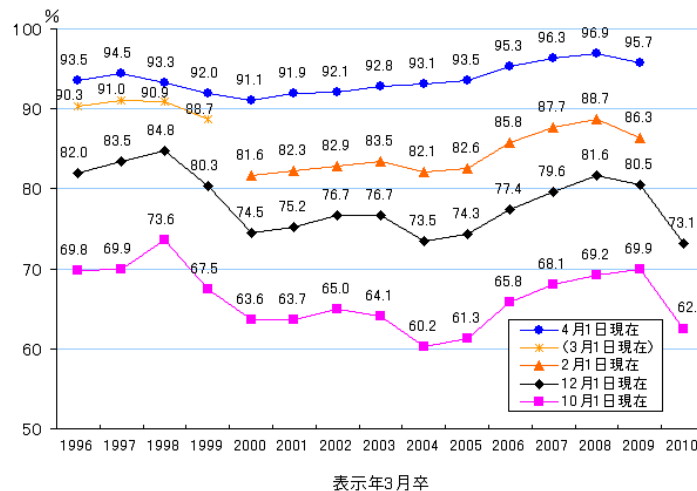
【教育】 日本大学理工学部（助手）、高等学校職員

【公務員】 警視庁、神奈川県警、藤沢市役所

○平成 21 年度の就職状況

厚労省と文科省が全国の大学、短大、高専、専修学校を対象に本年度の内定率を調査した結果、12月1日現在で62.5%と前年度の69.9%から急落したことが判明した（下落率は1996年の調査開始以来最大）。当学科においても10月時点の内定率は学部生が53%、大学院生が77%であり、「就職決定率は希望者のほぼ100%に達している」との定型句が書けない未曾有の事態に陥った。その中で学生達は目標とする業種、職種を見失うことなく何度もチャレンジしており（学生編集委員ページ参照）、就職指導委員会は臨時就職ガイダンスやオフィスアワーの個別相談などを行って全力で支援してきた。なお、工化会共催の第4回就職セミナーは、39社参加のもとで平成22年2月26日（金）に開催された。次年度の就職状況はさらに不透明であり、今こそOB、OGの方々の積極的かつ具体的な支援をお願いしたい。

就職(内定)率の推移(大学)



(注) 内定率とは、就職希望者に占める内定取得者の割合。各大学等において、所定の調査対象学生を抽出した後、電話・面接等の方法により、性別、就職希望の有無、内定状況等につき調査。全国の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校の中から、設置者・地域の別等を考慮して抽出した112校についての調査。調査校の内訳は、国立大学21校、公立大学3校、私立大学38校、短期大学20校、高等専門学校10校、専修学校20校。調査対象人員は、6,250人(大学、短期大学、高等専門学校併せて5,690人、専修学校560人)(以上2010年)。

(資料) 厚生労働省・文部科学省「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」

平成21年度工化会事業報告

平成21年度工化会通常総会は、駿河台校舎1号館2階カフェテリアにて平成21年5月16日(土)午後4時半より役員・会員59名(委任状364名)の出席を得て開催されました。本年度からは総会を懇談会として開催し、総会では、庶務、会計、会員、会報の各委員会の平成20年度事業報告および会計報告、ならびに平成21年度事業計画および会計予算案、役員の変更案、校友会の個人表彰の推薦者案等の審議を行い、これらを承認しました。なお学科創設70周年記事業についての報告も合わせて行われ(詳細は西宮教授の寄稿をご覧ください)、通常総会終了後、同会場で懇親会を催しました。本年度の懇親会には創設70周年記念会発起人の皆様をご招待し、盛会の内にお開きとなりました。

事業計画としては役員会、通常総会の開催、駿河台入試フォーラム2009・第10回日本大学理工学部一日体験化学教室・CSTオープンキャンパス2009・第6回産学連携交流会・第4回物質応用化学科就職セミナー並びに第2回短大オープンカレッジものづくり&サイエンス・スクール2009への後援、新規事業としては、工化会独自の講演会の開催、工化会賞の授与が決まりました。この中で工化会独自の講演会は、平成21年5月8日(金)・9日(土)に行われた物質応用化学科新入生オリエンテーション(於日本大学軽井沢研修所)の際に第1回目を会員の小笠原 守人氏(S55年卒、NTTシステム開発(株))に講師をお願いし、新入生に「キャリア教育」についてお話していただきました。第2回は元工化会会長の安達昭郎氏(昭和33年卒、ピーアンドシー株式会社社長)をお招きし、12月11日(金)に2年生を対象として、「これから問われるChemistryとは…」と題した講演会を実施しました。本年度最後の講演会は平成22年2月26日(金)に開催し、昭和35年卒業の原幹夫氏(元東洋通信機株式会社)から「人工水晶の育成」と題して講演していただきました。

またこれまで卒業時には、優等賞(授与者:日本大学総長)、一新会賞(授与者:一新会)、松本賞(授与者:故松本教授)、桜工賞(授与者:理工学部校友会)等の表彰が行われきましたが、これらに加えて本年度より工化会としても、在学時の学術・文化・スポーツ等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した者を新たに表彰することになりました。平成21年度は厳正な審査の結果、学術部門において25名(大学院:2名、学部:22名、短大:1名)を表彰者として、3月25日(木)の学部・大学院・短大の学位記伝達式の際に、賞状と記念品を授与しその栄誉を讃えました。

平成20年度の工化会予算については、平成17年度から予

算を經常会計予算と特別会計予算の2種類作成しており(特別会計とは準会員(学生会員)還付金を管理するための会計です)、平成21年度經常会計予算は総額428.3万円で、学生支援授業費(104.1万円)、各種講演会・行事補助事業(58.4万円)、卒業生支援事業(181.0万円)、その他(21.0万円)、次年度繰越金(63.8万円)であり、特別会計予算は総額1007.6万円で、卒業生支援事業(20.0万円)、会計業務(3.5万円)、次年度繰越金(984.1万円)を經常しております。なお、平成21年度の会員諸氏による会費の納入状況(平成21年4月1日～平成22年2月1日)は、納入者数377名、納入金額は約82万円となっています。納入者の中には複数年度分の会費を納入された方や、寄付をお寄せいただいた方も多数おられますが、本号の会費納入者氏名一覧の掲載を持ってこれらの方々への御礼に換えさせていただいています。

さて、本年度は理工学部校友会の個人表彰者として工化会から次の3名の方(倉形邦英氏(S35年卒)、越智健二氏(S36年卒)、故 安江 任氏(S41年卒))を推薦致しましたが、平成21年6月19日(金)に行われた理工学部校友会通常総会(於東京ガーデンパレス)にて、3名共に校友会表彰規定に基づきその功績を讃えて表彰されました(安江氏は追賞)。

最後に平成21年度の工化会主催行事ならびに後援行事の概要を記載します。

- ① 平成21年4月18日(土)15:00～17:45 役員会
- ② 同年5月16日(土)15:00～17:00 通常総会
- ③ 同年7月12日(日) 駿河台入試フォーラム2009
- ④ 同年7月25日(土) 第10回日本大学理工学部一日体験化学教室
- ⑤ 同年8月1日(土)～2日(日)CSTオープンキャンパス2009
- ⑥ 同年10月31日(土) 第2回短大オープンカレッジ
「ものづくり&サイエンス・スクール2009」
- ⑦ 平成22年2月9日(火) 第6回産学連携交流会
- ⑧ 平成22年2月26日(金) 第4回物質応用化学科就職セミナー

以上 庶務委員会

産業廃棄物の収集・運搬、中間処理及びリサイクル



株式会社 **三栄興業**

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎 3-347

60年卒 **鈴木 義弘**

TEL 048-955-1632 E-mail : sanei-k@misato-net.com

ホームページ : <http://www.misato-net.com/3ak/>

会費納入者名簿 (平成 22 年 2 月 1 日現在)

昭和16年卒業 和田守 哲治 天野 章 樫村 正久 津崎 統一 渡部 剛 昭和17年卒業 小川 守三 稲垣 達雄 笹岡 義人 昭和18年卒業 浅谷 公洋 穴山 義正 金井 昇介 小林 和夫 笹生 仁 吉永 利男 昭和19年卒業 矢野 誠 脇 幹夫 神谷 洋 玉置 弥栄 (故人) 原 敬二 昭和20年卒業 大野 猛夫 安彦 不二雄 有山 勝陽 伊藤 和雄 太田 善造 神本 慶助 重藤 捨雄 澁谷 洋平 杉浦 銀蔵 昭和21年卒業 斉藤 光平 杉山 忠次 中谷 宏 長崎 行太郎 (故人) 馬場 和朗 松本 健次 昭和22年卒業 別所 範鑑 大川 襄治 廣田 博 昭和23年卒業 店網 武男 伊東 達郎 伊藤 譲 上野山 高正 柿本 和男 鷹島 秀雄 (故人) 昭和24年卒業 青池 嘉一 小倉 契秀 昭和25年卒業 小林 猛夫 市川 安邦 尾高 陽一 木根潤 弘水 榊田 雄三 丹野 豁 古館 和夫 吉田 耕一 昭和26年卒業 鈴木 信夫 鈴木 一成 棚池 宏明 棚橋 和弘	平田 達男 稲垣 正 太田 精一 加納 照彦 川西 正人 小島 和夫 (故人) 谷 俊一郎 渡邊 光夫 昭和27年卒業 池田 勤 植松 貢 柏木 治彦 日置 隆 渡辺 義久 雨宮 学 市川 次良 勝又 茂 神戸 貞治 木下 眞喜雄 櫻木 輝志 新谷 光良 直川 準 井出 俊一 石田 宏 高田 芳行 林 貞吉 昭和28年卒業 石垣 恭弘 田村 佐重 田村 碩基 中村 重信 中村 幸雄 藤間 佐多夫 三田 郁夫 宮尾 利政 村上 全司 岩崎 晃 栗田 吉男 佐藤 正巳 竹村 政一 徳永 静 福島 敏郎 堀 武 山口 猛 渡邊 靖 昭和29年卒業 浅川 和昭 石井 喜悦 石垣 重昭 井上 秀雄 尾崎 実 加藤 浩一郎 瀧谷 俊雄 谷川 清 中嶋 貞夫 村松 俊作 八田 肇 米山 廣保 大内 蕃 高橋 久雄 齋藤 虎雄 昭和30年卒業 金井 孝道 寺島 賢治 古川 新 松田 誠一 本橋 久弥 森 康男	山浦 寔 植竹 和也 笠間 三男 小林 國平 昭和31年卒業 川口 國雄 小松原 彬 杉浦 允 鈴木 一郎 田中 宏之 高木 弦 高橋 一正 役重 典之 中沢 利勝 廣橋 亮 米倉 久雄 柿澤 正彦 市町 衆司 雁部 敬夫 田畑 調友 矢野 弘子 吉田 幸三 昭和32年卒業 阿久津 芳彦 網代 良太郎 石井 孝二 石渡 正夫 工藤 富司 小谷 豊 篠崎 清 園田 勲 田中 昭男 田村 浩司 竹原 晃 坪井 聰介 東海林 正 樺本 弘昭 西田 金誉 細谷 文夫 矢作 栄甫 依田 恵市 池島 敬宜 篠沢 明 渋谷 六郎 村松 勉 栗原 孝夫 福島 弘之 昭和33年卒業 阿部 正明 丸山 義三 青山 達也 五十嵐 輝行 稲田 欣一郎 大井 壽 奥野 士郎 加賀 勘之助 柏崎 敏郎 久保田 景一 小林 脩一 才木 義夫 齋藤 二郎 高木 三郎 滝沢 幸二 玉井 滋夫 中島 眞喜雄 永井 滋 西野 武 藤田 亘弘	箕浦 滋 宮森 隆志 守屋 伊佐雄 吉田 靖 広瀬 俊雄 青木 弘 武田 弘 原 幹夫 昭和34年卒業 岩瀬 善則 牛込 力夫 長田 侑己 児玉 五男 佐藤 忠 桜井 鉦二 玉置 憲三 貫井 徳藏 藤森 信正 宮 道夫 横倉 隆康 小田切 孝光 渡辺 真郎 昭和35年卒業 安達 昭郎 青木 滋夫 石川 好隆 内田 穆堂 大久保 保夫 梶原 康敏 門倉 利夫 黒木 妙子 河合 哲次 小見川 健 酒井 孝次郎 定方 聰博 篠 大太郎 瀧澤 文男 辻岡 伸浩 難波 純一 西嶋 泰世 (故人) 野島 秀次郎 町田 収 南 一郎 谷田部 寛昭 米田 修一 渡邊 高章 遠藤 脩造 尾崎 武二 倉形 邦英 佐久間 恒和 須藤 隆司 関口 勝 高橋 健一 丸山 長資 宮本 實 小野 清人 村川 信子 山本 成也 昭和36年卒業 青木 俊一郎 (故人) 畔上 統雄 石井 四郎 石井 照明 石川 隆夫 宇賀治 正名 漆原 孝太郎 小川 昌太郎 越智 健二	飯戸 斌 河内 宗弘 木村 繁夫 北林 伸一 斉藤 博 坂本 昌伍 鈴木 善治郎 炭田 幸宏 崎下 昌道 高柳 裕臣 武田 光司 松本 規雄 村越 英彦 矢本 暖郎 横山 樹静 吉田 昌弘 佐藤 貞男 砂川 憲二 野村 友次 中村 紀史 小串 照宗 昭和37年卒業 伊地知 竜清 梶山 昌矩 倉澤 守雄 駒井 俊雄 清水 大三 庄司 翠 杉崎 秀夫 丹野 彰 津崎 信隆 塚田 政弘 長谷川 修一 本田 睦治 旭 重男 石岡 龍右 磯崎 昭徳 長田 守一 長友 良久 植木 庄左衛門 児玉 義宏 徳永 喜八郎 昭和38年卒業 吉井 彰子 井野 二陸 佐野 直道 生駒 二郎 岩本 恒夫 大橋 隆 木村 次雄 小松 允 栗田 公夫 坂本 一 酒井 誠一 (故人) 白鳥 照道 竹内 栄多 塚田 豊 内藤 清剛 (故人) 中澤 隆夫 永田 正巳 西浪 毅 西山 孝彦 原 正樹 山口 重周 渡部 長幸 長嶋 潜 白石 益郎 杉田 松生
--	---	---	---	--

藤野 裕
鈴木 忠
昭和39年卒業

石川 和正
片岡 康浩
金田 紘一
神谷 中
亀村 轟

渡辺 久和
久保田 敏夫
佐藤 栄一

斎藤 伸之
斎藤 博之
斎藤 守圀

鈴木 功
鈴木 庸一
瀬尾 宏

竹石 肇
武田 幸久
中野 洪

中林 実
仲野 一次郎
野口 文雄

野尻 義雄
原 襄輔
平井 勲

堀 是治
松村 政之輔
田嶋 安郎

山崎 彰
遊佐 勝見
横田 力男

和田 高伸
青木 匡
板橋 重光

小屋原 英雄
鈴木 良治
瀬尾 直朝

田中 誠悦
田原 恭一
高松 武生

富山 洋子
富土 光男
稲見 義子

藤池 曠子
昭和40年卒業
高田 菊平

有田 喜一
岩崎 紘一
上田 輝世

上野 公雄
牛山 恵次
加藤 昌弘

河村 勝弘
佐藤 瑞雄
清水 博太郎

杉本 陽一
武井 秀彦

高間 伸一
丹野 隆善
西脇 鉄雄

幡野 匡彦
廣田 才之
三谷 治郎

飯原 打越
山岡 景仁
昭和41年卒業

相見 光郎
楠 勝行
重田 勲次

高桑 豊
塚田 悦造
奈倉 正宣

堀 仁一
藤池 誠治
木村 勲

曹永 桂生
白龍 美津夫
彦田 一夫

丸山 武紀
玉應 亨三
昭和42年卒業

今田 雅躬
岡見 宏道
香取 省二

榑木 勝己
中井 忠男
中川 芳雄

豊田 文江
渡部 高尚
長田 義男

佐藤 肇
高橋 秀雄
富田 潤一

成田 勝紀
能代田 順久
山崎 博

露木 尚光
昭和43年卒業
岡本 雅美

浅井 保雄
新井 浩一
安藤 公一

宇智田 俊一郎
海上 幸三
大矢 武司

北村 正孝
斎藤 明臣
進藤 宣詔

昭和44年卒業
安藤 純一
石井 和夫

石山 利男
大橋 正宜
剣持 晃

花井 秀之
堀 豆弘

八幡 順一
横山 二郎
渡辺 光仁

小田原 豊
工藤 智教
小林 勉

昭和45年卒業
柿澤 修
小林 満

篠崎 勝彦
田中 碩
土田 久

永島 一男
成川 憲男
平塚 良一

宮内 和司
加村 尚喜
瀬戸 博

寺田 高德
齋藤 菊夫
森田 尚

昭和46年卒業
小谷 将彦
斎藤 政久

島津 学
鈴木 重衛
丹野 幸久

冬室 誠
三宅 久利
昭和47年卒業

小嶋 信男
森 伸一
飯倉 登美雄

昭和48年卒業
櫻川 昭雄
指田 高好

渡辺 明典
川津 義人
坂口 信昭

関口 優紀
岡本 雅美
秋久 俊博

昭和49年卒業
牛山 仁司
久保 隆

小島 元昭
小茂田 英男
佐藤 憲一

澤口 孝志
中山 郁雄
元木 英二

昭和50年卒業
上田 賢二
上條 治夫

佐藤 栄一
中島 邦夫
関口 真理

昭和51年卒業

荒澤 康夫
井之上 佳三
梶 公一

佐野 勝栄
昭和52年卒業
荻原 謙二

最勝寺 公英
土岐 正史
深澤 豊史

古橋 雄二
昭和53年卒業
五十嵐 博

植松 一郎
深津 誠
松野 雅安

吉田 光夫
昭和54年卒業
大野 正博

椎野 宏明
谷藤 善美
昭和55年卒業

小笠原 一恵
小笠原 守人
金子 堅司

波岡 宣彦
森 弘通
木曾 義和

昭和56年卒業
池田 実
木村 文紀

熊谷 一弘
昭和57年卒業
佐藤 慎一

伊藤 和宏
昭和58年卒業
岩崎 高好

栗原 清文
鈴木 澄夫
昭和59年卒業

大坪 利彰
観音寺 信夫
清水 繁

昭和60年卒業
石見 勝洋
鈴木 義弘

加藤 紀代
昭和61年卒業
小嶋 芳行

昭和62年卒業
加藤 慎次郎
幾留 孝司

昭和63年卒業
石井 睦子
長岡 美佐子

中道 幹芳
三井 宏
森田 孝節

平成元年卒業

相原 孝志
磯崎 誠也
黒田 美和子

平成2年卒業
上野 功圭
菅野 元行

平成3年卒業
村原 伸
高田 昌子

平成4年卒業
宮崎 裕子
加來 洋子

林 由浩
藤池 一誠
堀江 里衣子

平成5年卒業
米田 哲也
平成6年卒業

清水 孝
佐藤 順一
平成7年卒業

岡田 賢識
谷合 哲行
平成8年卒業

野地 章平
太田 裕久
平成9年卒業

浮谷 基彦
林 秀憲
平成10年卒業

伊掛 浩輝
平成11年卒業
浮谷 彩

樋口 孝夫
松田 弘幸
小野 博之

平成13年卒業
太田 洋
橋内 誠

小島 正浩
藤田 尚之
前田 みづほ

平成14年卒業
吉川 賢治
平成15年卒業

山根 麻衣子
平成16年卒業
田代 哲也

最上 尚行
瀧澤 慶子
平成19年卒業

薄 舞子
物質応用化学科教員
西宮 伸幸

PVC・他合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

- ☐ 本社・工場 〒348-8585
埼玉県羽生市小松台1-603-29
☐ 総務・経理
TEL 048-561-5221 FAX 048-561-5229
☐ 生産管理・購買
TEL 048-561-5222 FAX 048-561-5229
☐ 技術開発
TEL 048-561-5225 FAX 048-561-5228
☐ 品質管理
TEL 048-561-5226 FAX 048-561-5496

- ☐ 東日本支店 〒113-0033
東京都文京区本郷3-6-9 エルデ本郷館4F
TEL 03-5840-5531 FAX 03-5840-5541
☐ 西日本支店 〒532-0011
大阪府大阪市淀川区西中島4-3-8 新大阪阪神ビル10F
TEL 06-6307-2727 FAX 06-6307-2748
☐ 北陸支店 (2007年3月開設予定)
福井県福井市日之出1-29-1

☐ VINA Showa co.,Ltd.
ベトナム/ホーチミン市

昭和53年卒業 代表取締役社長 池本 俊一

編集後記

学生時代、名ばかりの編集委員として記事を書くこともなく、編集会議の打ち上げだけ参加した懐かしい思い出は20年前の事。時が経つのは早いもので、物質応用化学科と改称され11年になりますが、未だに名前が覚えられず、「物質化学応用科だっけ？」などと学生時代の友人に確認すると失笑されてしまいます(>_<)

今回26号となるこの工化時報の名前も、何年、いや何十年かすると「工化って何？」と学生や卒業生達が疑問に思うような時代が来るかと思うとぞっとする反面、そんな時代まで工化時報を発行し続けられることも願っております。そのためにも、これからも誌面の内容を充実させていきたいと思えます。皆様の一層のご支援をよろしくお願いいたします。

(工化時報編集委員 平成2年卒小川 誠 記)

お知らせ

平成22年度の行事予定

5/15(土) 工化会総会 (16:00~18:00)

7/24(土) 一日体験化学教室

7/31(土), 8/1(日) CST オープンキャンパス 2009

連絡先

- ・工化会及び会費に関する問合せ→庶務(澤口 TEL:03-3259-0819)
- ・住所変更に関する問合せ→会員(櫻川 TEL:03-3259-0802)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(秋久 TEL:03-3259-0806, FAX:03-3293-7572, E-mail:jihou@chem.cst.nihon-u.ac.jp)

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲 載 料 1 件 : 10,000円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

◎伊藤和雄, 永島一男, 小川 誠, 橋本徳子, 石黒香織,
秋久俊博, 谷川 実, 遠山岳史, 平野勝巳, 森田孝節

学生編集委員

M2 須賀 徹

4年 石部奈美子, 山下七重, 田中絵里, 辻村佳奈子,
内藤千裕, 中沢舞貴, 森川 純, 諸 明勲, 横家希

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>